

大会第2日

# 第 4 分 科 会

期 日 平成 29 年 7 月 8 日 (土)

会 場 県立音楽堂

◇受 付 9 : 00 ~ 9 : 30

◇分科会 9 : 30 ~ 11 : 40

## 【協議題・テーマ】

家庭教育と P T A	1 「家庭教育の充実を図るための P T A 活動」 2 「学校、家庭、地域社会の連携を担う P T A 活動の在り方」 ~ 青少年に豊かな人間性を培うために ~
-------------	---

司 会 者 神奈川県立小田原高等学校 P T A 副会長 益田麻衣子

- 1 開会のことば (司会)
- 2 開会あいさつ 関東神奈川大会実行委員 安藤 弘毅
- 3 日程説明 (司会)
- 4 議長・提案者・助言者紹介 (司会)
 

議 長	千葉県立長狭高等学校長 鈴木 希彦	茨城県立日立商業高等学校長 宮内 教男
提 案 者	千葉県立長狭高等学校 P T A 会長 織田 敏男	茨城県立日立商業高等学校 P T A 会長 石和 敦
助 言 者	神奈川県立西湘高等学校長 森 加津子	神奈川県教育委員会生涯学習課グループリーダー兼社会教育主事 古住 有美
- 5 (1) 議長あいさつ・提案発表・協議  
(2) 議長あいさつ・提案発表・協議
- 6 指導助言
- 7 閉会のことば (司会)

### 閉 会 式

◇11 : 40 ~ 11 : 50

- 開式のことば (司会)
- 閉会あいさつ (司会)
- 閉式のことば 関東地区高等学校 P T A 連合会副会長 篠塚 洋一
- 事務連絡 (司会)

第4分科会	「家庭教育とPTA」
発表者	茨城県
所属校	県立日立商業高等学校
役職	PTA会長
氏名	石和 敦
発表テーマ	「学校、家庭、地域社会の連携を担うPTA活動の在り方」 ～青少年に豊かな人間性を培うために～

## 1 はじめに ー本校の概要ー

昭和38年創立、平成24年に50周年を迎えました。平成29年度現在創立55年目です。校訓は、誠実・協和・進取です。卒業生13,000人以上が、県北地区を中心に活躍しています。本校は、第1学年商業科4クラス、情報処理科1クラスの5クラス編成で、第2・3学年は、商業科5クラス、情報処理科1クラス編成で合計17クラスです。男女の比率は、男子4割程度、女子6割程度です。

本校は、多くの資格取得と部活動を中心にして人間性を磨く育成をしています。簿記・情報処理など商業系の資格から、漢字・英語検定などの普通教科の資格まで取得しています。

部活動は運動部12部と文化部9部が活動しています。運動部は、陸上競技部・ソフトテニス部・剣道部が平成28年度関東大会出場を果たしました。文化部も盛んで、簿記部・珠算電卓部が全国大会出場を果たしました。

茨城県では、ほとんどの高校が夏の甲子園予選の1回戦から全校応援を実施しています。本校も、団結力やお互いをリスペクトする気持ちを育成するため、毎年実施しています。吹奏楽部・応援団・チアガールは、昼休みや放課後を中心に、熱心に練習に取り組んでいます。卒業生や野球部の保護者だけでなく、多くのPTA会員や地域住民が、真剣にプレーする野球部員に熱気ある応援を送っています。



【野球応援】

進路状況は、進学と就職の比率が例年半分ずつで推移しています。ここ数年で大学進学者が増加するとともに、事務系の就職者が増加しています。銀行などの地元金融機関が、高卒者に対する求人再開したことが大きいと思います。

## 2 本校PTAの概要

主な活動は、年3回の役員会、PTA・部活動後援会総会、支部活動、生徒指導・広報・成人教育の各委員会活動です。

PTA・部活動後援会総会は、授業参観(第3学年は保護者参加型の進路説明会)、総会、支部総会、各委員会、学年・クラス懇談会という日程で行います。例年、150名ほどの保護者が参加しています。本校はPTAとは別に、部活動後援会があります。主にPTA役員を卒業された方が務めています。部活動活性化にたいへん尽力していただいております。



本校PTAには6支部があり、支部活動を行っています。評議員として、各学年から6名～10名ほど選出され、それぞれ活発に活動しています。主な支部活動は、学校周辺・各駅のクリーン作業、吼洋祭(文化祭)での模擬店、各委員の選出など、本校PTA活動の要となっています。

吼洋祭は、隔年開催の行事で、平成28年度は実施していません。吼洋祭がない年度は、体育祭を実施しています。平成27年度の吼洋祭では、6支部すべて模擬店を出し、店の装飾や帽子を制作したりして、揚げパン・おにぎり・シュークリーム・ポップコーンなど多数の商品を販売し、すべての支部が完売することができました。売り上げは、生徒会に寄付し、募金や生徒の諸活動の補助に使われました。



【平成27年度 吼洋祭 支部模擬店】

また、部活動後援会では、餅つきの実演・販売をしました。また、地元の先生によるサーターアンダギーの実演・販売をしました。吼洋祭2日目は一般公開のため、他校生徒、保護者はもとより、多くの地域住民にも来校していただきました。地

域住民に本校を知っていただく良い機会と考えています。



【平成27年度 吼洋祭 地元教員の店】

各委員会活動も活発に活動しています。

生徒指導委員会は、巡視指導が主な役割となります。夏休みを中心に、各祭りの巡回指導、10月には列車添乗指導、11月には、さわやかマナーアップ運動で駅や学校周辺において、生徒と共にポケットティッシュを配布しながらあいさつ運動を実施しています。



【さわやかマナーアップ運動】

広報委員会の活動は、6月末と3月の卒業式において、年2回定期的にPTAだよりを発行しています。学校行事や部活動を記載することで、子どもの様子を知ったり、本校PTAの行事や、高P連関係の講演概要など、PTA活動を紹介した

りしています。平成28年度は、12月にPTAだより号外を発行し、特に、支部活動・各委員会活動、学校での生徒の諸活動等を会員のみなさまに広報することができました。号外作成にあたっては、広報委員が4回ほどの委員会を開催して作成しました。



【平成28年度PTAだより号外】

成人教育委員会の活動は、8月のPTA研修旅行、10月頃のPTA親善球技大会、11月の家庭教育研修講座が主な担当行事です。

### ① PTA研修旅行

PTA研修旅行は、昭和52年から始まり、平成29年度で第41回目を数えます。学校視察、工場見学、歴史遺産視察、芸術鑑賞を通じて、見聞を広めることと、会員相互の親睦を図っています。例年、約75名募集のところ、締め切りのかなり前に充足してしまうくらいの大盛況です。平成28年度は、豊洲市場移転問題で注目されている築地市場を見学・昼食の後、芸術鑑賞として劇団四季でマンマ・ミーアを鑑賞しました。また、バスの車内では、本校の概要、進路状況、学校諸行事のビデオ鑑賞などの研修を行っています。



【平成28年度 芸術鑑賞】

### ② PTA親善球技大会

PTA親善球技大会は、昭和56年から開催し、平成28年度で第36回を迎えました。ソフトボール、バレーボール、キックベースボール、ソフトバレーボール、ペタンクと様々な種目を過去に実施しました。ここ数年はペタンクを実施しています。簡単に説明すると、カーリングのような種目で、ピュットという的に、相手より近い玉がたくさんあるほど点数が入ります。激しい運動はまったくしません。例年100名ほどが参加しています。平成28年度優勝は日立支部（5回目）でした。

### ③家庭教育研修講座

本分科会テーマ「家庭教育とPTA」に沿う、家庭教育研修講座という本校独自の行事があります。文部省指定により、昭和50年から開始し、平成28年度で第41回になりました。平成27年度は、隔年開催にしたため、実施していません。本講座の趣旨としては、教員・保護者・生徒の3者による話し合いを行い、本講座を通じて保護者としての悩みや子どもの悩みなどを持ち寄り、先生方の意見を交えて本音で話し合える機会を設け、問題解決に役立てるといえるものです。主な構成は、授業参観・全体会・分科会・閉会式となっています。

授業参観は、前述のPTA総会と家庭教育研修講座において、年2回実施する高校はあまりないと思います。本校での子どもの様子が保護者に伝わるよい機会と捉えています。



【授業参観】

平成 28 年度の全体会は、神奈川県を拠点に活動している水谷修先生の講演を実施しました。「子育てで一番大切なこと」という演題で講演していただきました。水谷先生の本音で熱意を持った問いかけに、生徒・保護者は真剣なまなざしで聞き入っていました。生徒には、絶対に危険薬物に手を出さない、夜の世界に入らないことを、多くの経験をもとに話していただき、「聞いてよかった」という生徒が多数でした。保護者に対しても、熱心に問いかけていただきました。以下に、分科会での主な感想を記載します。

【生徒】

- ・あなたの命は、あまたの犠牲になった命の上にある。
- ・薬物は、専門病院ではないときちんとした治療はできない。
- ・夜の世界からの誘惑に絶対に乗らない。
- ・夜は寝る、昼は体を動かす。
- ・「やればできる」は高校生ならわかっている。
- ・講演会を聞いて良かった。心にひびいた。

【保護者】

- ・大人の世界の映し鏡が子どもの世界になることを具体的に話していただき、自分の行動を考え直した。
- ・子どもをほめることの大切さ。  
9回ほめて1回叱る。
- ・水谷先生の講演は、こころに響いた。
- ・講演会に来て良かった。
- ・薬物は身近にある。

・親も水谷先生に注意されたが、そのとおりだと思った。

参加した 120 名ほどの保護者は、子育てにおいて大切なものを再確認しました。



【水谷 修 先生】

過去の全体会講演（抜粋）

- 15 回（平成元）「我がスポーツ人生」 小林 孝児先生（レスリング金メダリスト）
- 16 回（平成 2）「バレーボールにかけた青春時代」 寺山恵子先生（バレーボール金メダリスト）
- 17 回（平成 3）「いま高校生として」 笠間 達雄先生
- 18 回（平成 4）創立 30 周年事業と兼ねて実施 吉村 作治先生
- 19 回（平成 5）「私の見た外国」 秋山 貞子先生（日本ガールスカウト連盟初代茨城支部長）
- 20 回（平成 6）「PTA 活動とコミュニケーション」 宇佐美栄十先生（本校部活動後援会相談役）
- 21 回（平成 7）「つながっていると気づくとき」 寺門 光輝先生（茨城キリスト教大学教授）
- 22 回（平成 8）「日本音楽の流れ」 横田 鈴琉先生
- 23 回（平成 9）「薬物乱用について」 所 功雄先生  
「子供のサラ金地獄を見た親の記録」 天馬 二平先生
- 24 回（平成 10）「出会いこそ人生」  
「私のひとりごと」 川又 正義先生
- 25 回（平成 11）「子供と語る将来の夢」 富岡 健先生

- 26回(平成12)「生きる力を育てる家庭の役割」  
霜田 実先生
- 27回(平成13)「大人として親として子どもへの  
関わり方について」助川 和夫先生
- 28回(平成14)創立40周年事業と兼ねて実施  
「バレーボールにかけた私の青春」  
大林 素子先生
- 29回(平成15)「夢や希望をかなえるために」  
—青春期の性意識と行動習慣について—  
和田 由香先生
- 30回(平成16)「面接・就職・ビジネスに成功す  
るマナー百科」  
～あなたに伝えたいビジネスマナー～  
加藤木 和子先生
- 31回(平成17)「みんな一緒にマナーアップ」  
本校卒業生6名による講話
- 32回(平成18)「大丈夫ですか?あなたの食事の  
栄養バランス」  
井川 聡子先生(茨城キリスト教大学助教授)
- 33回(平成19)ケータイ・インターネットの危険  
性
- 34回(平成20)「子供の声 聞こえていますか?」
- 36回(平成22)「ケータイ安全教室」  
子どもをトラブルから守るために
- 37回(平成23)「やる気を起こす」大逆転教育  
森 均先生
- 38回(平成24)創立50周年事業と兼ねて実施  
乙武 洋匡先生  
チャレンジ精神を忘れずに
- 39回(平成25)夢をかなえる話し方  
池崎 晴美先生
- 40回(平成26)スポーツマンシップを考える  
広瀬 一郎先生  
～スポーツを通じた人間教育～

昼食後、3つの分科会に分かれ、保護者・生徒・  
教員が参加し、全体会の内容を踏まえて話し合  
いをしました。今回の分科会でのテーマは、第1分  
科会「親の本音と子の本音」、第2分科会「言葉  
づかいの大切さ」、第3分科会「高校生のお金の  
使い方」としました。1分科会は、保護者約20

名、各クラス代表生徒12名、助言する教員1  
名・支部担当教員数名で構成しました。その分  
科会の中で、さらに3グループに分け、少人数  
で話し合いをしました。進行は以下のように行  
いました。

- ① 水谷先生の講演で「心に残っている内容」を  
3つ以上、箇条書きしていただく(5分)
- ② みんなで「発表+感想=講話を振り返る」  
(15分)
- ③ テーマに沿ってディスカッション  
(20-25分)
- ④ 「きっかけ」「気づき」をまとめる  
(5-10分)
- ⑤ 分科会内で発表(10分)
- ⑥ 助言者より 講評・まとめ(5分)

最初は話しづらい生徒や保護者もいましたが、  
しばらくすると活発に意見が出てきました。ディ  
スカッションでは、テーマとは違ったことまで派  
生して熱心に意見交換している保護者もいました。  
分科会での発表では、自分のグループの結果を分  
科会全員に発表しました。





【分科会での様子】

閉会式では、3つの分科会参加者が集まり、代表者が各分科会から出た結果を発表しました。他の分科会の結果を聞き、参加者相互に情報を共有することができました。3分科会から多くの感想が出ました。以下に、分科会での主な感想を記載します。

〔保護者〕

- ・子どもたちの気持ちがわかって良かった。
- ・テーマと違う内容も話せて良かった。
- ・支部長を中心として進行してくれて良かった。
- ・他の子どもに自分の子どもの悩みを相談できて良かった。
- ・ほめることの大切さがわかった。
- ・親は子どものことをたくさん知りたいが手段がわからない。
- ・言葉づかいがよいと、仕事でも救ってくれる。  
「ごめんね」より「ありがとう」
- ・親は子どもをわかっている部分とわからない部分がある。逆に子どもも同じ
- ・反抗期は言い方による。  
なんでできないの→どうしたらできる  
できないことにイライラする。何に対してもイライラする。
- ・理想の姿は言葉ではなくて行動で見せる。

〔生徒〕

- ・ご飯をいっしょに食べることからコミュニケーションが生まれる。
- ・「やればできる」は高校生ならわかっている。
- ・家庭の中ではほめられない。

- ・黙ってそばにいてくれて感謝。
- ・自分の夢を笑わないで聞いてくれて感謝。

家庭教育研修講座は、本講座の趣旨に加え、各家庭の教育・子育てのあり方の見直す機会であると感じています。

### 3 最後に

2年前からは、2月に保護者・生徒向けに、岐阜経済大学の高橋正紀先生をお迎えし、冬期講演会を実施しました。部活動に対する心構えやスポーツと地域社会の関係などの見識を深めるという趣旨で開催しました。部活動を真剣に取り組む意義と、部活動だけでなく、なぜ勉強をするのかといった根本をわかりやすく講演してくれました。生徒は、講演を聞くだけでなく、感想文を書くことになっています。自分を本気で磨くことの大切さ、自分の行動が周りの行動を変える、勉強の大切さの再認識など、記載できないくらいの感想がありました。一方、保護者は、生徒が感想文を書いているときに、高橋先生が保護者用に話していただきました。概要は本編と同じですが、親子が同じ方向性を持たなければ成功しないということを強調していました。



【冬期講演会】

家庭教育研修講座や冬期講演会など、本校PTAでは、生徒・保護者（会員）の支援に力を入れています。ちょっとした家庭での悩み、家族には相談しにくいことを話し合える機会を設け、よりよい子育て・教育につなげていけるものと考えています。